

下吉田駅駐車場管理規程

1. 駐車場の名称および所在地

下吉田駅駐車場

所在地 山梨県富士吉田市新町二丁目 8-12（下吉田駅構内）

2. 駐車場管理者

（1）所在地

山梨県南都留郡富士河口湖町船津 3641

（2）名称

富士山麓電気鉄道株式会社

（3）電話

0555-73-8181（富士急コールセンター）

（4）代表者

取締役社長 石井謙一

第1章 総則（第1条―第6条）

第2章 利用（第7条―第13条）

第3章 駐車料金及び算定等（第14条―第17条）

第4章 引取りのない車両の措置（第18条―第21条）

第5章 保管責任及び損害賠償（第22条―第26条）

第6章 雑則（第27条）

第1章 総則

（通則）

第1条 本駐車場（以下「駐車場」という。）の利用に関する事項は、この規程による。

（契約の成立）

第2条 駐車場の利用者（以下「利用者」という。）は、この規程を承認のうえ駐車場を利用するものとする。

（営業時間）

第3条 駐車場の営業時間は、毎日0時から24時までとする。

（時間制利用の利用期間）

第4条 駐車場の1回の利用（月極による利用を除く。）は、駐車した日から起算して7日目の営業時間終了時までを限度とする。ただし、やむを得ない場合には、駐車場管理者（以下「管理者」という。）の判断によりこれを延長することができる。

（営業休止等）

第5条 管理者は、次の場合には駐車場の全部又は一部について、営業休止、駐車場の隔絶、車路の通行止及び車両の退避（以下「営業休止等」という。）を行うことができる。

- （1）自然災害、火災、浸水、爆発、施設又は器物の損壊、その他これ等に準ずる事故が発生し又は発生するおそれがあると認められる場合
- （2）保安上営業の継続が適当でないと認められる場合

(3) 工事清掃又は消毒を行うため必要があると認められる場合

(駐車できる車両)

第6条 駐車場に駐車することのできる車両（自動二輪を含む。以下同じ。）は、積載物又は取付物を含めて長さ5.5m、幅2.3m、高さ2.5m及び重量2tを超えないものに限る。

ただし、一部指定場所であれば、長さ12m、幅2.5m、高さ3.8m及び重量16tを超えないものの駐車を許可する。

第2章 利用

(駐車場の入出等)

第7条 車両が入庫するときは、指定の駐車位置に入庫するものとする。

2 車両が出庫するときは、事前に係員窓口において納付し、出庫するものとする。

3 定期（月極）駐車券による利用者（以下「定期駐車券利用者」という。）は、係員から求めがあった場合には定期駐車券を提示するものとする。

4 駐車場の管理上必要があるときは、出入口の一部を閉鎖することができる。

(駐車位置の変更)

第8条 管理者は、駐車場の管理上必要があるときは、駐車位置を変更させることができる。

(駐車場内の通行)

第9条 利用者は、駐車場内の車両通行に関しては、次の事項を守らなければならない。

- (1) 徐行すること。
- (2) 追い越しをしないこと。
- (3) 出庫する車両の通行を優先すること。
- (4) 警笛をみだりに使用することなく静かに運転すること。
- (5) 標識、信号機の表示又は係員の指示に従うこと。

(禁止事項)

第10条 利用者は駐車場（駐輪スペース含む）において、次の事項に掲げる行為をしてはならない。

- (1) 出入庫時以外に原動機をむやみに作動させること。
 - (2) 駐車枠以外の場所に駐車すること。
 - (3) 喫煙又は火器を使用すること。
 - (4) 紙屑、ぼろ切れ、吸殻等のごみを捨てること。
 - (5) 飲酒、賭け事、騒音を発する行為をすること。
 - (6) 駐車場内及び車輛内で宿泊すること。
 - (7) 場内の設備、器物、他の車両及びその取付物等に損傷させること。
 - (8) 前各号に掲げるもののほか、管理者の業務又は他の利用者の妨げとなる行為をすること。
- 2 駐車場内（駐輪スペース含む）において、管理者の承認を受けた場合を除き、次の各号に掲げる行為をしてはならない。
- (1) 営業行為（商品やサービスを販売・貸与及び返却・提供すること、もしくは売買・契約・申込受付や予約の取り付け等の商取引。
 - (2) 客引き・勧誘行為

- (3) 演説、宣伝、募金、署名運動、文書の配布、掲示等を行うこと。
 - (4) 物品の販売、飲食の提供を行うこと。
 - (5) 前号各号に掲げるもののほか、駐車する目的以外に駐車場を使用すること。
- (入庫拒否)

第 1 1 条 管理者は、駐車場が満車である場合は受付を停止するほか、次の場合には
駐車を断り、又は車両を退去させることができる。

- (1) 駐車場の施設、器物、他の車両、その積載物や取付物を損傷し、また汚すおそれがあるとき。
- (2) 引火物、爆発物その他の危険物を積載し、また取り付けているとき。
- (3) 著しい騒音や臭気を発するとき。
- (4) 非衛生的なものを積載又は、取り付けているとき。
- (5) その他駐車場の管理上支障があるとき。

(出庫拒否)

第 1 2 条 管理者は、次の場合には駐車した車両の出庫を拒否することができる。

- (1) 利用者が正当な理由なく駐車券を返納しないとき。
- (2) 利用者が出庫する場合に所定額の現金を納付しないとき、文は定期駐車券を示提しないとき。

(事故に対する措置)

第 1 3 条 管理者は、駐車場において事故が発生し又は発生するおそれがある時は、
車両の移動その他必要な措置を講ずることができる。

第 3 章 駐車料金及び算定等

(時間制駐車料金)

第 1 4 条 時間制駐車料金は、車両 1 台につき次の表のとおりとする。

時間区分	料金の額 (上限額)
普通時間 0 時から 2 4 時まで	1 日 (または 1 回) につき 1, 000 円

(消費税を含む)

(時間制駐車料金における駐車時間)

第 1 5 条 時間制駐車料金を算出するための駐車時間 (この条において「駐車時間」という。) は、入庫した時刻から出庫の時刻までの時間とする。この場合駐車場内での洗車、修理、駐車位置の変更、荷物の積み下ろし等のため車両が駐車位置を離れている時間も駐車時間とみなす。

第 1 6 条 定期駐車券を発行する場合には、利用者は管理者との間においてあらかじめ使用契約を締結するものとする。ただし、定期駐車券の発行数及び発行条件については、駐車場の利用状況等に応じて決定する。

- (1) 定期駐車料金は、次の表の額を上限とし、当該額以下で管理者が定めるものとする。

種類	有効時間	通用期間	料金 (上限額)
全日定期駐車券	0 時から 2 4 時まで	1 カ月	22, 000 円

(消費税を含む)

- (2) 定期駐車券による駐車場の利用等については、定期駐車契約で定めるもののほ

か、以下に定めるところによる。

- ① 定期駐車券は、他人に譲渡、転貸してはならない。
- ② 駐車場が満車であるときは、定期駐車券利用者に対して駐車を断ることがある。この場合、定期駐車料金の割戻しはしない。
- ③ 利用者は毎月26日までに翌月分の駐車料金を管理者の指定する方法により支払わなければならない。
- ④ 定期駐車による利用者がその有効時間又は通用期間を超えて駐車した場合は、超過時間の駐車時間の算定は第14条の規定による。
- ⑤ 使用期間の中途解約の場合、使用料の精算は解約日の属する月をもって月割計算とする。
- ⑥ 定期駐車券利用者は、定期駐車契約において記載した車両の駐車目的以外に駐車場を利用してはならない。また、定期駐車券利用者が定期駐車契約において記載した車両を変更しようとする場合は、所定の変更届を事前に提出し、管理者の承認を得なければならない。
- ⑦ 定期駐車券利用者が、駐車場内で著しく秩序を乱し、管理上支障を来すおそれがある場合は、管理者は、定期駐車契約を解除することができる。

(不正利用者に対する割増金)

第17条 時間制利用者（定期駐車券利用者以外の利用者をいう。以下同じ。）が、所定の駐車料金を支払わないで出庫したときは所定の駐車料金のほかに、その3倍相当額の割増金を収受する。

2 定期駐車券利用者が、次の方法により定期駐車券を不正使用した場合は、定期駐車券を無効として回収し、かつ所定の駐車料金の他に、不正使用に係る時間制駐車料金の3倍相当額の割増金を収受する。

- (1) 定期駐車契約において記載した車両以外の車両の駐車について定期駐車券を利用した場合
- (2) 券面データを改変した場合
- (3) 通用期間又は有効期間以外の時間に定期駐車券を不正に使用した場合

第4章 引取りのない車両の処置

(引取りの請求)

第18条 時間制利用者が予め管理者への届出を行うことなく第4第条に規定する期間を超えて車両を駐車している場合又は定期駐車券利用者が定期駐車契約の期間の終了、解約又は解除となった日から起算して7日を超えて車両を駐車している場合において、管理者はこれらの利用者に対して通知又は駐車場における掲示の方法により、管理者が指定する日までに当該車両を引取することを請求することができる。

2 前項の場合において、利用者が車両の引取りを拒み若しくは引取ることができないとき又は管理者の過失なくして利用者を確知することができないときは、管理者は、車両の所有者等（自動車検査証に記載された所有者及び使用者をいう。以下同じ。）に対して通知又は駐車場における掲示の方法により管理者が指定する日までに車両を引取することを請求し、これを引き渡すことができる。この場合において、利用者は当該車両の引渡しに伴う一切の権利を放棄したものとみなし、管理者に対して車両の引き渡しその他の異議又は請求の申し立てをしないものとする。

- 3 前2項の請求を書面により行う場合は、管理者が指定する日までに引取りがなされないときは引取りを拒絶したものとみなす旨を付記することができる。
- 4 管理者は、第1項の規定により指定した日を経過した後は、車両について生じた損害については、管理者の故意又は重大な過失によるものを除き、賠償の責を負わない。

(車両の調査)

第19条 管理者は、前条第1項の場合において、利用者又は所有者等を確知するために必要な限度において、車両（車内を含む。）を調査することができる。

(車両の移動)

第20条 管理者は、第18条第1項の場合において、管理上支障があるときは、その旨を利用者若しくは所有者等に通知し又は駐車場において掲示して、車両を他の場所に移動することができる。

(車両の処分)

- 第21条 管理者は、利用者及び所有者等が車両を引取することを拒み、若しくは引取ることができず、又は管理者の過失なくして利用者及び所有者等を確知することができない場合であって、利用者に対して通知又は駐車場における掲示の方法により期限を定めて車両の引取りの催告をしたにもかかわらず、その期限内に引取りがなされないときは、催告をした日から3カ月を経過した後、利用者に通知し又は駐車場において掲示して予告した上で、公正な第三者を立ち会わせて車両の売却、廃棄その他の処分をすることができる。この場合において、車両の時価が売却に要する費用（催告後の車両の保管に要する費用を含む。）に満たないことが明らかである場合は、利用者に通知し又は駐車場において掲示して予告した上で、引取りの期限後直ちに公正な第三者を立ち会わせて車両の売却、廃棄その他の処分をすることができる。
- 2 管理者は、前項の規定により処分した場合は、遅滞なくその旨を利用者に対し通知し又は駐車場において掲示する。
 - 3 管理者は、第1項の規定により車両を処分した場合は、駐車料金並びに車両の保管、移動及び処分のために要した費用から処分によって生じる収入があればこれを控除し、不足があるときは利用者に対してその支払いを請求し、残額があるときはこれを利用者に返還するものとする。

第5章 保管責任及び損害賠償

(保管責任)

- 第22条 管理者は、利用者に駐車券を渡したときから同券を回収するときまで（定期駐車券による利用にあつては、定期駐車券を確認して車両入庫させたときから同券を確認して出庫させたときまで）、車両の保管責任を負う。
- 2 管理者は、出庫の際に駐車券を回収して（定期駐車券による利用にあつては、定期駐車券を確認して）車両を出庫させた場合において、管理者に故意又は重大な過失がある場合を除き、その車両に関する責任を負わない。

(管理者の損害賠償)

第23条 管理者は、車両保管にあたり、第25条の規定による場合及び善良な管理者としての注意を怠らなかったことを証明する場合を除き、車両の滅失又は損傷について、当該車両の時価、損害の程度を考慮してその損害を賠償する責を負う。

(車両の積載物又は取付物に関する免責)

第24条 管理者は、駐車場に駐車する車両の積載物又は取付物に関する損害については、賠償の責を負わない。

(免責事由)

第25条 管理者は、次の事由によって生じた車両又は利用者の損害については、管理者に故意又は重大な過失がある場合を除き、賠償の責を負わない。

- (1) 自然災害その他不可抗力による事故
- (2) 当該車両の積載物又は取付物が原因で生じた事故
- (3) 管理者の責に帰することのできない事由によって生じた衝突、接触その他駐車場内における事故
- (4) 第5条の規定による営業休止等の措置
- (5) 第13条の規定による措置

(利用者の損害賠償)

第26条 管理者は、利用者の責に帰すべき事由により損害を受けたときは、その利用者に対してその損害の賠償を請求するものとする。

第6章 雑則

(この規程に定めない事項)

第27条 この規程に定めない事項については、法令の規定に従って処理する。

(附則)

本規程は2025年10月1日より施行する。